

令和8年度VRシステムを活用した認知症出前研修会 開催要項

- 1 目的 座学だけでは実感がわからない認知症特有の症状について、VR（仮想現実）による疑似体験を通して実感的に理解を深めることで、認知症の人ができる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる共生社会の実現を推進するため、VR認知症体験研修会を開催する。
- 2 開催時期 令和8年5月15日（水）～令和9年3月12日（金）
- 3 開催方法 ハイブリッド体験会
 - ・参加者は会場に集まり、会場とファシリテーター（講師）をオンラインでつなぎ、スクリーン越しに進行します。
 - ・VR機材は、参加人数分を事前に会場に送ります。当日の機材設定・準備等は、講師の指示のもと、会場側で行っていただきます。※ファシリテーター（講師）の現地派遣を希望する場合は、その理由を申込書に記入してください。
- 4 受講定員 原則30名以上
- 5 受講対象 岡山県内に在住・在勤・在学の方（対象年齢：13歳以上）
- 6 受講費用 無料
- 7 研修時間 原則90分～120分
※学校の授業時間に合わせて時間短縮での実施を希望する場合などは、別途ご相談ください。
- 8 研修内容 ○VRによる疑似体験
90分～120分で3つのコンテンツを体験します。
コンテンツの内容は、裏面をご参照ください。

○グループワーク
疑似体験後、グループワークで話し合うことで、認知症への理解や共感を深めます。
- 9 申込方法 受講申込書（別紙）に必要事項を記入のうえ、岡山県子ども・福祉部長寿社会課までメールにてお申し込みください。
【E-mail : souichirou_makihara@pref.okayama.lg.jp】（担当：楨原）
- 10 その他
 - ・会場及びインターネット接続環境は、申込者側でご準備ください。
 - ・応募多数により予算の上限に達した場合は、事務局にて選定を行い、開催を決定します。ご希望に添えない場合がありますのでご了承ください。

体験可能なコンテンツ



認知症の中核症状の1つである視空間失認の症状を体験。距離感がつかめなくなる状況を再現。行動・心理症状とされるものには理由があることに気づく。(2分)



レビー小体型認知症の特徴である「幻視」の世界を体験するコンテンツ。レビー小体型認知症当事者である樋口直美さん完全監修で再現。(2分)



電車に乗っていて、降りる駅がわからなくなる状況を体験。症状だけを見るのではなく、その症状がある方の気持ちを想像する力につなげる。(5分)



認知症と診断された本人への家族の対応を2パターンにわけて体験。おじいちゃんを責め続ける家族と、優しく受け止める家族。本人に対する影響を体験する。(10分)



「やすおじいちゃん物語」とセットで体験するコンテンツ。家族を取り巻く事情を息子の視点で体験する。(10分)



39歳で認知症と診断された丹野智文さんがモデルの物語。認知症と診断され、落ち込み、うつ病を経て前向きに立ち直るまで、家族、会社、友人がどのように彼を支えたのかを追体験する。(19分)

体験者の声

認知症については、全て理解しているつもりでいたが、上から目線だったのかもしれない。“症状”を見て“ご本人”を見ていなかったのかもしれない。

●認知症専門医

認知症に対して「大きな負」のイメージしかなかったが、体験を通じて負のイメージがなくなった。

●大学生

今まで受けてきた講義とは全く違う理解の仕方で驚いた。VR体験の力に大変驚かされた。

●認知症認定看護師

認知症の方の気持ちを理解し寄り添いたいとずっと思っていたがなかなかできなくて苦しんでいた。体験を通じてこれから自分がどうしていけばいいのかやっとわかった気がして涙が出た。

●介護職員

10年前にこの体験ができていたら自分の母親に対する介護が変わっていたかもしれない。今介護をしている家族に見てほしい。

●介護家族

現在父親の介護中だが早速、接し方を変えていきたいと思った。

●介護家族